アカウミガメと私

御前崎市内小学校
服部さん

私の通う小学校では、四十五年以上前から、アカウミガメを飼育しています。

私は動物が大好きで、五年生になってウミガメのお世話ができるのをずっと楽しみにしていました。三年生のころには、ウミガメの本をたくさん読んで、自分で絵本を作りました。市のウミガメかんし員さんと、産卵の確認に行き、どうやって卵を保ごしているのかも見せてもらいました。海岸のゴミ拾いも、できる時に続けています。

五年生になり、六年生からカメ当番がバトンタッチされました。赤ちゃんは小さくてかわいくて、私が守るんだと思いました。そのカメたちを夏休み前に放流した時は胸がギューっと苦しくなりました。キケンだらけの海で、生きていけるだろうか。すぐに食べられちゃわないかな。自分でエサをとれるかな。

大人になって、御前崎に戻って来てね。ぜったい生きのびてね。アカウミガメにとって、大人になるまで生きのびることが、どれだけ大変か知っていたけれど、私は信じたくて、祈る気持ちで見送りました。

夏休み、長ぐつをはいてビーチクリーンに参加しました。アカウミガメのことも、もっと調べました。市の海外研修では、シンガポールでアカウミガメに関するクイズを出して、どんなことが問題で、私たちには何ができるのか、一緒に取り組んでほしいと発表してきました。そして、もっと色んな人に聞いてもらいたい。世界中のたくさんの人に知ってもらって、一緒に取り組めたらと思うようになりました。

大人のカメの一番の死因は、人間によるものです。人間の捨てた釣り糸などのゴミにからんで泳げなくなったり、エサとまちがえてプラスチックを食べてしまうことが大きな原因です。

アカウミガメは、卵のころの砂の温度で性別がきまります。地球温だん化がもっと進むと、メスばかりになって絶めつしたり、暑すぎて死んでしまうことも考えられます。

ふ化してすぐの赤ちゃんは、海に反射する月の光に向かって海を目指します。でも、自動販売機や車の光など、人工的な光のせいで、海にたどり着けず、そのまま死んでしまう赤ちゃんもいます。

二〇五〇年には、海の中は、生き物よりもプラスチックが多くなると言われています。ビーチクリーンをした次の日、同じ海に行くと、またちがうゴミが流れ着いています。プラスチックがほとんどです。今このしゅん間も、どんどんゴミは増え続けています。町で捨てたゴ

ミも、風に運ばれて海にたどりつきます。自分の家に、色んなゴミが次から次へと捨てられたら、絶対にみんなイヤなはずです。かぜをひいて熱がずっと続いたら、しんどくて、少しでも早く良くなってほしいのに、この地球はずっと、熱が出たままでいます。暑いから冷ぼうを使うと、もっと地球は熱くなってしまいます。だけど、暑すぎて使わない生活ができません。逆に、冷ぼうが効きすぎて、寒すぎるし設も多くて、モヤモヤしてしまいます。

アカウミガメを守るということは、自分たちのすむ地球を守るということにつながります。私の家族は、ふだんから、ペットボトルではなくマイボトル、ビニール袋ではなくショッピングバッグを持ち歩いたり、ビーチクリーンをしたり、行けるところは車ではなく自転車を使うようにしています。アメリカでは植林に参加しました。ゴミの分別もしています。服は、いとこや近所のお姉さんのお下がりもたくさん着ています。でも、それよりも地球の環境が悪くなる方が早いから、これ以上どうしたら良いのか教えてほしいです。そして、みんなの地球だから、世界中の人に一緒に考えて、一緒に取り組んでほしいです。